

星 限

2010年Ⅳ

262号

●望星講座●

第333回

<創立者松前重義博士生誕記念講座>

橋本 敏明 山下 泰裕

スポーツで結ぶ民族と国家の友情

～中国と中東における柔道交流から～

第334回

堀 啓子

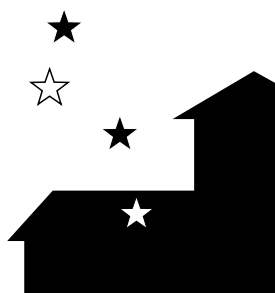
尾崎紅葉の「金色夜叉」について

第335回

小島ブンゴード孝子

今、日本がデンマークから学ぶことは何か

～高齢者福祉の取り組みから～



表紙のイラストについて

表紙のイラストは、望星学塾記念館（1935年、東海大学創立者松前重義博士が電気学会から無装荷ケーブル通信方式の研究・発明により授与された浅野博士奨学祝金を元に建築された建物）を横から見たシルエットをデザインしたものです。

無限

4

第 333 回 望星講座

＜創立者松前重義博士生誕記念講座＞

スポーツで結ぶ民族と国家の友情

～中国と中東における柔道交流から～

望星学塾

副塾長 橋本 敏明

東海大学体育学部

教授 山下 泰裕

8

第 334 回 望星講座

尾崎紅葉の「金色夜叉」について

東海大学文学部 文芸創作学科

准教授 堀 啓子

12

第 335 回 望星講座

今、日本がデンマークから学ぶことは何か

～高齢者福祉の取り組みから～

ユーロ・ジャパン・コミュニケーション

代表 小島ブンゴード孝子

第 333 回 望星講座 2010 年 10 月 23 日

< 創立者松前重義博士生誕記念講座 >

スポーツで結ぶ民族と国家の友情

～中国と中東における柔道交流から～

今回の生誕記念講座は、松前重義博士の志を再確認する意味で、当時塾長であった創立者の二十一年前の望星講座と同じテーマが設定されました。はじめに橋本望星学塾副塾長から、松前先生が国際柔道連盟会長選挙に立候補するに当たって述べられた資料を中心に、柔道を通して日本が国際交流に貢献し、友情と平和を共有していくことの意義が紹介されました。引き続き、NPO 法人柔道教育ソリダリティ理事長でもある山下東海大学体育学部長から、中国と中近東における柔道交流を中心に、松前先生の理想を受け継いだ活動の一端が紹介されました。

柔道・友情・平和



講演 I

望星学塾副塾長

橋本 敏明

本日は二つの資料を配布しています。

一つは、昭和五十四年四月の「国際柔道連盟会長立候補にあたって」という先生の文章です。もう一つは第七十六回望星講座で先生が講演されたものをまとめた「無限」(第四〇号)のコピーです。じつはこの時の講演のタイトルが「スポーツで結ぶ民族と国家間の友情」でこの同じ会場で、スポーツによる国際交流の意義というものを熱く説かれたのです。私たちがどこまで内容的に迫ることができるか、大変緊張しているところです。

さて、松前先生は一九七九年十二月に国際柔道連盟(IJF)の会長選挙に立候補し当選されます。その立候補に際し、なぜ国際組織のトップに立候補するのか、その考えをまとめたのが最初に紹介した資料です。じつは昨年(2009)の十二月にIJF 会長就任三十周年を記念して、私が発起人となり会合を開きました。その時に、この資料があるのを知りました。非

常に素晴らしい文章ですので、山下先生が理事長、私が副理事長をしています。NPO 法人柔道教育ソリダリティで各国語に訳して世界に紹介しています。

その時の先生のモットーは「柔道・友情・平和」でありました。これは、現在松前柔道塾のモットーになっています。「柔道」のところがサッカーや剣道にあるいは他のスポーツに、また学術・文化に置き換えても良いと思います。それを通じて友情を培い、最終的には平和な世の中をつくる。これが先生の考えでした。

武道家・松前重義

ご承知のように、先生は多方面で活躍されました。技術者、官僚、教育者、政治家…。私たちはここに武道家を入れたと思います。いずれにせよ先生の根底にある精神は同じであり、そのころを多彩な方面に応用されたのではないかと考えます。その根底にある精神に影響を与えたのが、内村鑑三先生の思想です。松前先生の書いた本の中に「正義のため

に自分の信じたものは断固として曲げない、という内村先生の精神は、自分の熊本のモッコス精神と共通したところがある。損得を考えず自分の信じる義に殉じる」と、気質の上で同じものを感じるといった内容の一節があります。また先生は別の著書で「私の肉体と精神は柔道で鍛えられた。柔道を通して知力、体力、実行力ということを培った」と述べています。

ここで先生と武道とのかかわりを簡単に紹介します。先生は少年時代から柔道に熱中されました。その柔道体験が後年様々などころに生きたと話しています。また、思想形成の上でも役立つたと語っています。六十歳前後からの社会活動を見てみますと、日本武道館設立に当たっては中心的な役割を担います。そして、日本と世界を結ぶ文化交流に活用されて、世界の柔道発展のために尽力されました。その根底にあるのは人づくりでした。友情を培い、平和な世界を築くという信念です。松前先生の思想と行動を理解するキーワードは「教育と平和」であると思います。

国際柔道連盟会長立候補

当時、IJF の会長は英国人のパーマーという人でした。この方は、日本語はもちろんすべての公用語を用い、マ

ネージメントにも大変すぐれた人でした。いくら松前先生でも彼に選挙で勝つのは無理だろう、というのが大方の予想でした。ところが五分五分の状況になり、相手側から出た最大の批判は「松前はあまりにも高齢過ぎる」というものでした。IJFの会長は自らが世界を駆け巡る行動力とパワーが必要だと。ところで、この時松前先生の通訳をしていた人がハワイ出身で元プロ野球選手の大館勲という人でした。この方がIJF総会でスピーチを松前先生の若さをアピールする表現で訳したところ、会場から大きな拍手が湧き起こったというエピソードが残っています。いずれにせよ大変厳しい会長選挙でありました。勝利した松前先生は当選後パーマー前会長を日本に招待しています。まさに武士道と騎士道を見る思いでした。

会長就任の翌日、山下先生が世界選手権初出場で初金メダルを獲得します。松前先生のIJF会長として初仕事は、教え子に金メダルを手渡すことでした。以後、ロス五輪を含めて松前先生は山下先生に金メダルを与え続けることになりました。先生にとつて最も至福のひとつときでありました。

望星学塾の玄関前に英語で書かれたプレートがあります。これは、松前先生のIJF会長就任を記念して備え付けられたものです。そして、二階に子どもたち

を育成する柔道場を建設されました。これは、未来を拓く子どもたちを柔道を通してたくましく育てて欲しいという松前先生のメッセージであると思つていません。先生が書かれた色紙の一つに「平和の理想を忘れしな」があります。先生が私たちに語り続けられた言葉です。その思いをいかに継承するか、私たちの課題だと思えます。本日配布しました「無限」の中には、ソ連に野球場を建設したエピソードも掲載されています。このことは野球がオリンピック種目になることにながりました。スポーツを通じた国際交流の一つとして特筆すべき出来事であったように思われます。最後に、配布資料から、二箇所ばかり松前先生の言葉を引用して私の講演を終えたいと思います。

「私が国際柔道連盟の会長に立候補したのは、この世界の人々に愛され親しまれた柔道の一層の普及を通じて、日本の文化を世界に理解させ、日本のイメージを変え、新しい日本像をつくりだすためでもある。私は突然この立候補を決意したのではない。私は私なりにこの十五年間にわたつて考え、そして行動してきた、文化の国際交流の仕の一環として、そしておそろく最後の仕事として、この立候補を決意したのである」

「私は昨年、喜寿を祝つてもらつた。そして私は残された生涯を、十五歳の時から六十年以上、熱愛してきた柔道と、

その道に通じて日本の将来に明るい展望を切り拓く仕事にささげることを決意した。そして、この仕事はスポーツによる世界の交流と発展という面から世界の平和にも寄与できるだろう。柔道は、最も平和的かつ礼節を重んず

るスポーツであり、それは日本の精神の結晶であるといつてよい。私は、この精神を世界に広めてゆきたい」
先生の「この精神を世界に広めてゆきたい」という願いを最もよく理解しているのが、この後講演される山下先生です。



講演Ⅱ

東海大学体育学部長

山下 泰裕

少年時代は暴れん坊

まず、幼稚園時代の私の写真から見ていただきます。同じ年齢ですが、私がひとときわ大きいのが分かります。私だけ台の上に乗っているわけではありません（笑い）。元気もあり、大変な問題児でした。

二十六年前、オリンピックで優勝した記念として、小学校時代の同級生がお祝いの会合を開いてくれました。記念として表彰状をいただきました。その文面を紹介いたします。

「表彰状 山下泰裕殿。あなたは小学校時代、その大きな体で、けんかをして相手を泣かしたり、教室で暴れたりして我々同級生に多大な迷惑をかけました。しかし、先のロサンゼルスオリンピック

においては、我々同級生の期待を裏切らず、持ち前の闘魂を発揮し、ケガにもかかわらず金メダルに輝きました。このことは、小学校時代の数々の悪行を清算してあまりあるところでもあります。よって、ここに表彰し、偉大なるやつちゃんに対し、最大の敬意を払おうと共に永遠の友情を約束するものである」

本当にワルだったんですね（笑い）。クラスメイトが学校へ来なくなつた。やつちゃんが怖くて（笑い）。これを聞いた私の両親は大変苦しみました。「このままでは息子は将来うしろ指をさされるような人間になる」と心配しました。そこで、考えたのが私に柔道をやらせることでした。教室で暴れるのはよくないことだが、ルールを守り先生に従つて柔道で暴れるのなら、いくら暴れてもよい。こうして、

私は有り余る闘争心を柔道にぶつけていくようになります。

やがて私は史上最年少の十九歳で全日本選手権で初優勝します。じつは高校二年生まで熊本の九州学院に在籍しておりました。このとき松前重義先生から「君の夢を東海大学の一貫教育の中で実現してみないか」と東海大学相模高校に誘われました。私より先に、松前先生に惚れ込んだ祖父が「この先生にならば愛する孫を預けてもよい」ということで、転校することになりました。当時は何かと物議を醸し出しました。邪道だと書いたマスコミ報道もありました。しかし、このことについては、私自身がその後どう歩んで来たかで、自ずと答えが得られるものと考えます。

松前重義先生が私に期待したこと

さて、高校二年の夏で白石先生の元を離れ佐藤先生の指導を受けることとなります。東海大学の恵まれた環境の中で、素晴らしい指導者と出会い、そして松前先生の温かい励ましがあり、私は柔道家として順調に成長していきます。

しかし、オリンピックにはなかなか縁がありませんでした。カナダのモントリオールは僅差で敗れ代表の座を逃しました。次のモスクワは日本のボイコットで出場できませんでした。そして三度目の

ロス五輪で、金メダルを獲得することができました。IJF会長の松前先生からお祝いの花束をいただきました。これは私にとって生涯忘れ得ぬ思い出です。

松前先生は、私に「山下君、ぼくが君を応援してきたのは試合で勝ってほしいからだけじゃない。スポーツを通じて世界平和に貢献できる人間になってほしいからだ。わかるか」と、何度か話されました。当時の私は、頭では理解できましたが、その真意は理解できておりませんでした。日本代表として国際試合に臨み海外の選手と友情を育むぐらいしかできなかったのです。やがて、指導者となり全日本の監督も八年間務めました。また、二〇〇三年から二〇〇七年までIJFの教育コーチング理事も務めました。このころから柔道に対するイメージが少し変わってきました。松前先生が私に期待されたことを実践するフィールドが徐々に整いつつあったと思われれます。

そこで感じたことは、私が思っていたほど日本の柔道は世界から信頼されていないということでした。IJFの役員の方からこんな声が聞こえてきました。「日本は日本のことだけしか考えていない。日々世界は変化しているにもかかわらず、頑なに守ってきた日本式の柔道を変えようとしません。もっと世界全体の柔道の発展を考えて行動してほしい。」もちろん私個人としてはその声には受け入れ

がたい点多々あります。いずれにせよ、日本の柔道に対する信頼を取り戻したい、という思いで意気込んでおりました。

NPO法人の設立

ちょうど同じタイミングで、ロシアのプーチン大統領（当時）と出会います。二〇〇三年に小泉純一郎首相（当時）とプーチン大統領の首脳会談が行われる予定になっていました。が、この会談はどうもしっくりいかなかったらしい。心配した橋本龍太郎元首相が「プーチンは柔道家だから、山下君にアイデアを聞いてみたらどうか」と政府に助言したということでした。

それを受けて私は外務省に次のような提案をしました。一つは、ロシア選手強化への協力です。アテネ五輪に向けて日本とロシアの強化合宿を行う。二つ目は、二〇〇三年五月のサンクトペテルブルク建都三〇〇周年記念行事に私自身も参加し、プーチン大統領が若き日に稽古をした柔道場で小泉首相と日露首脳会談を行うことです。そして三つ目は、プーチン大統領の柔道に関する著作の邦訳と出版です。結果的に、この三つは全部実現しました。

ある日トヨタの会長で日本経団連会長でもあった奥田碩さんと出会うことになります。奥田さんが私にこんなことを言

われました。「あなたはとても素晴らしいことをしているが、無駄な時間を費やしてはいないだろうか。あなたの限られた時間を有効に使うために、小さくてもよいから組織をつくったらどうですか。多くの人に協力してもらって、国際交流や平和活動を行うというのなら、私も支援を惜しみませんよ」と。さっそく私は現在NPO法人の副理事長の橋本先生と事務局長の光本さんに相談し、さらに松前達郎総長にも報告し快諾を得ました。松前重義先生の精神を受け継ぎ、柔道を通して日本の心を伝え、国際交流を深めて平和を築く一助にしたい、という思いから二〇〇六年四月にNPO法人柔道教育ソリダリティを設立しました。この会場にも額が掲げられています。「柔道・友情・平和」が我々のモットーです。我々のささやかな活動は、昨年四月には国税庁認定のNPOを受けました。

我々の活動の柱の一つはリサイクル柔道着を集めることです。そのメインは高校の授業で使った柔道着です。使い古された柔道着がきれいに洗われて我々の元に送られて来ます。現在、国際柔道連盟には一九九の国と地域が加盟しています。これらの国と地域には一着の柔道着を買えないところも多いのです。短パンとTシャツで柔道をしている光景も珍しくありません。そういう国と地域にまめてリサイクル柔道着を送っています。

また海外にトップクラスの指導者を派遣しています。柔道の技術的な指導だけでなく、日本の柔道の心を広める努力が続いています。さらに、大学生、大学院生、卒業生などが夏休みや春休みの長期休暇を利用して海外で柔道の指導に当たっています。

中国に二つの「友好柔道館」誕生

二〇〇四年、上海でIJFの理事会が開かれました。その時中国柔道連盟の副会長から「中国の男子柔道はまだオリンピックでのメダルがない。四年後の北京五輪に向けてどうか力を貸してほしい」という依頼がありました。日本経団連の奥田会長にご相談し引き受けることを決断、トヨタ、全日空、新日鉄から援助を受けました。また、柔道を通じて中長期の日中交流をしたい、という旨を外務省に提案し、ODA資金の枠内で中国に柔道場をつくることになりました。調査の結果、青島が非常に熱心であるということで、我々が視察した一年後の二〇〇七年十一月に、最初の柔道場が青島に完成しました。正面には嘉納師範が唱えた「自他共栄」の文字が掲げられました。

青島に柔道場ができると、南京にもつくってほしいという要望が表面化してきました。そう簡単にできるものではありません。ましてや、日本国民の血税です。

私は少し腹立たしく思っていました。青島での成果をまず見てから判断すべきだと考えていたのです。

ところが、二〇〇八年八月十五日付の読売新聞に「南京に柔道場が」という記事が大きく出て、その年の十一月に我々は南京を視察することになります。南京では同時通訳で話し合いを行いました。いろいろな質問があった中に「なぜ南京に柔道場をつくるのか」という質問がありました。私は「日中の友好を考えて、南京がふさわしいと思いました」と応えました。すると大きな拍手が湧き起こりました。南京の人も同じ思いを感じてくれているのだな、と私は深い感銘を受けました。



かつて日中間で不幸な歴史があった南京に今春第二号の「日中友好柔道館」が誕生しました。道場には日本と中国の国旗が並んで掲げられています。「どうして一緒に掲げられているのか」という質問を受けましたが、「日中友好の柔道場なのだから当然だろう」と、私は答えました。こうしたやりとりで私が痛感するのは、異文化を認め合う「思い」の難しさです。

イスラエル・パレスチナとの交流活動

小泉首相（当時）とイスラエルの首相の会談が予定されていましたが、この会談はイスラエルの首相の急逝で中止になります。当然ながら私の訪問もなくなりました。しかし、これを機会に中近東で平和活動ができないものか、という思いが強くなり、私と井上康生君の二人でイスラエルとパレスチナを訪問する企画を立てました。

初日はイスラエルを訪れました。私が一時間ほど講演を行い、井上君と二人で柔道の指導をしました。二日目はパレスチナで同じ行動を行いました。そして三日目はイスラエルとパレスチナの子どもたちによる合同練習をエルサレムで開催しました。ご存知のように互いに敵対し、ふれ合う機会すらない子どもたちです。私は、その双方の国の子どもたちを

集めて指導したということで、目的を果たしたと思っていました。ところが気がつくとき、我々の心配をよそに両者が互いに組み合って「乱取り」の稽古を始めていたのです。これが柔道の魅力であり、スポーツの大きな魅力の一つではないかと思えます。

我々のNPOでは、今年の十二月に福岡で開かれる中学生の国際柔道大会にイスラエルとパレスチナ双方の子供たちを招き、交流活動を行う予定です。我々ができることは柔道ですが、いろいろな分野で交流を深め、相手国を理解し、そして日本を理解していただくことが大切だと思えます。そうした私の思いが、九月九日付『毎日新聞』の「これが言いたい」欄に「世界をつなぐ〈日本の心〉」という題で掲載されました。

そこでも触れましたが、このところ日本の若者が内向きになり、海外留学などにチャレンジする気概が希薄になっていることが非常に心配です。目先のことばかり追いかけずに、もっと視野を広げ、好奇心を旺盛にして未知の世界に飛び込んでいってほしいと思います。

柔の道は世界に通じています。また、民族と国家の友情を育む国際交流に計り知れないパワーを持っています。日本が国際社会に目を向け、平和に貢献していくためにも、その可能性を大きく生かしたいと思えます。

第 334 回 望星講座 2010 年 11 月 27 日

尾崎紅葉の 「金色夜叉」について

東海大学文学部文芸創作学科 准教授 堀 啓子

尾崎紅葉が足かけ六年にわたって新聞に連載した「金色夜叉」は明治期のベストセラーとなりました。本講座では、この作品のあらすじを紹介するとともに、なぜ多くの読者を魅了したのかを解き明かします。また、外国の作品の模倣とされる諸説や、原作となったと考えられる作品について解説します。



堀 啓子【ほり・けいこ】

1970 年、兵庫県生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。専攻は、日本近代文学、比較文学。日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、2005 年より東海大学文学部講師、2008 年より現職。2000 年 11 月、「金色夜叉」の原作が英書であることを発見し、「読売新聞」の一面トップで報じられ話題に。2007 年、「学生の選んだ『いい授業』優秀賞受賞。主な著書に「図説 翻訳文学総合辞典」(共著・大空社)、「女より弱き者」(翻訳・南雲堂フェニックス)など。

足かけ六年新聞に連載

明治を代表するベストセラーといえる尾崎紅葉の「金色夜叉」です。「読売新聞」に連載され、大変な人気を博しました。その理由の一つにヒロインの鳴澤宮が絶世の美女であったことが挙げられます。じつはこちらの写真の女性(図①)は、大橋須磨子さんといって、宮のモデルの一人だと言われています。この写真は、昭和十年頃の写真で、彼女は五十四歳でした。当然ながら、若い時はさぞかし美人であつたらうと想像ができます。

さて、「金色夜叉」は明治三十年元旦から新聞に連載されました。連載は足かけ六年にも及びますが、尾崎紅葉の死により未完に終わります。近年まで幾度も舞台化、映画化され、流行歌にもうたわれました。じつは、当時の新聞は現在のよう

にあまり買われていませんでした。たとえば、「新聞を読んだか」と訊ねられると、「うん。五日前に読んだよ」という



図 - ①

回答があるような具合で、当時の人は新聞は数日前に読んでいればそれでよかったのです。が、新聞社としては何とかして日刊紙を多くの人に読んでほしい。その定着購読のための戦略として考えられたのが連載小説でした。つまり、読者はニュースそのものよりも小説の明日が知りたくて購読する。ですから、当時の新聞連載には有名な作家がずらりと名を連ねていました。当然、ライバル紙との争いも熾烈で、少しでも面白くないと打ち切りになってしまいます。このように連載小説は新聞の看板であり、売り上げを担っていたのです。

そうしたなかで、足かけ六年も続いた、この「金色夜叉」は大変な人気作です。それを示す有名なエピソードがあります。ある若い女性ファンが連載途中で胸を病みます。余命短いなかで、彼女は家族を枕元に呼び遺言を残します。それは「私が死んでも私の墓には花はいりません。ただ、『読売新聞』を毎日墓前に重ねてください」というものでした。それほど読者の心を魅了し、鷲掴みにした小説であつたといつて過言ではありません。

三百円のダイヤモンド

この作品のなかで、「三百円の金剛石(ダイヤモンド)ー」や「僕の涙で月はきつと曇らせて見せるから」は、よく知られ

ているセリフです。もう一つ有名なのが、「熱海の海岸散歩する」という歌で、本日は曲だけ会場に流します。

ここで、簡単に「金色夜叉」のあらすじを紹介しましょう。

美貌の鳴澤宮には、高等中学の学生で間貫一という許婚がいます。高等中学といっても現在の中学生とは違い、二十四、五歳ぐらいの学生です。宮は十八歳です。貫一は両親を無くし鳴澤家に引き取られました。優秀で人格も高く、宮を大変愛していましたから、婿養子に入ることが決まっていました。

貫一は、宮との結婚を切望し、宮も貫一を愛していました。この配偶にどこか物足りなさを感じていました。宮は絶世の美女ですが、自分の美しさを客観的に見ています。美しさを自覚してはいるものの、それを自慢することはない。日常生活においてもしとやかでおとなしく、優しい上品な女性です。ただ、自分ほどの美貌ならば、もっと釣り合う男性がいるのではないかと突き放した見方をしていきます。この頃、美貌の女性が富貴の男性に見初められ、結婚するという例が多かったのです。

そして、正月のある日、カルタ会で宮は富豪の令息、富山唯継に見初められます。カルタ会とは若い男女が集まる名目で、今でいう婚活や合コンです。こうした華やかな場でてっとり早く注目を浴び

る方法といえは遅刻です。この時も遅れて来た男性がいました。それがこの作品でも有名な場面の一つになっています。

この男性の左手の薬指にはめられた金剛石の指環は、「まあ、ダイヤモンドよ!」「三百円だつて」と、たちまちカルタ会に集まった大勢の注目の的になります。当時の三百円は現在の三百万円以上。一般の人にはなかなか手に入るものではなく、とりわけ若い人には珍しい品でした。この指環の主こそが、富山唯継だったのです。

名前の通り、「富の山を唯継ぐ」という日本屈指の大富豪の令息で、富山銀行の跡取り息子です。年齢的にも結婚適齢期の彼は、妻として絶世の美女を求めていました。その後、唯継は宮について洗いやらい調査します。そこで、貫一という許婚がいること、宮が鳴澤家の跡取り娘であることなど、調べ上げます。そして求婚するわけですが、貫一にあきらめてもらうため一つの策を打ち出してきます。

それが、外国留学です。あきらめてもらう代わりに留学費を提供しようというものでした。ほかにも宮には身一つで富山家に来てもらい、鳴澤家の財産は留学後に貫一にすべて譲るという約束です。

ところで、当時(明治二十年代)留学費にいくらかかかったと思われませんか。一年間の留学費はおよそ二十万円だそうで

す。ある人の記録によればそれでもかつかつな生活状態だったそうです。ちなみに、当時官費で洋行するには、東京帝国大学主席・次席といった相当の秀才でなければなりません。文豪・森鷗外も留学を希望していましたが、帝国大学の成績がこれには届かず、選ばれませんでした。それで、鷗外は軍医の道を選択しドイツへ行くことにしたと言われてきます。いずれにせよ、当時外国へ留学できたのは大変な優等生がお金持ちだけだったのです。そういう意味では富山の出資は夢のような申し出であつたわけですね。

熱海の海岸の場面



では、宮はどうしたのか。彼女は求婚を受け容れます。それを知った貫一は宮が湯治で訪れた熱海に彼女を追いかけます。そして今もあります。美しい梅園で宮に出会うと、その夜のうちに海岸で宮を問い詰めます。有名な熱海の海岸の場面です。裏切られたと思つた貫一は思いの丈を宮にぶつけます。が、彼女は「堪忍して下さいよ、皆私が……何(どう)ぞ堪忍して下さい」と、ただただ謝るばかりです。貫一は何とか心変わりをやめるように説得しますが、宮は泣いて謝るばかりです。宮の心変わりを知つた彼は、宮をふりすてて、ついにその場か

ら行方をくらまします。ここでの有名なセリフが「二人が一緒に居るのも今夜限りだ。(中略)来年の今月今夜になったならば、僕の涙で必ず月は曇らして見せるから……」で、一月十七日の悲しい月明かりの夜でした。

さて、貫一は宮に対して今月今夜の月は忘れない、この夜の月は、毎年僕の涙で曇らせると、そう断言しました。彼はとても聡明でしたから、涙で月を曇らせることなどできないことは百も承知です。しかし、人事や人間の考える普通の認識を超えたところで月を曇らせるから覚えていてほしいというほど、宮を失つた貫一の思いや憤りは凄かつたわけですね。

この後、立腹した貫一はすがりつく宮を振りほどき、宮の細腰をはつたと蹴つて斃れ臥す宮を尻目に熱海の海岸の場か



図-②

ら行方知れずになってしまっています。この場面のブロンズ像が熱海駅から海岸へ十分ほど歩いたところにあります。

写真にある絵は明治に出版された初版の挿絵です(図1②)。注目していただきたいのは、貫一の足元です。この絵では靴を履いています。ところが、熱海の像では高下駄を履いています。どうして靴が下駄になったのか。じつは、後にこの作品は新派の舞台で何度も上演されま

す。舞台では雰囲気考慮して下駄が用いられました。ですから、ブロンズ像は舞台の役者さんに忠実に作られたと言われています。

余談になりますが、貫一が宮を蹴る場面は一月十七日でした。たとえば、明治三十年が舞台と考えると、確かに一月十七日は晴天で満月が出ていたようです。ですが、その後満月が回ってくる年は十年以上も後のことです。それに冬の太平洋側気候ですから曇りにくい。ですから、貫一がこの月を曇らせるには、相

未完だった「金色夜叉」

貫一が行方不明になり、その後宮は富山と結婚します。が、その直後から後悔し続けます。この後悔し続ける宮の姿は印象的で、多くの読者が同情しました。作者もここに、「超明治式の婦人」を描



図-③

出するつもりだった、と言われていました。

それから数年後、貫一は姿を現します。彼は以前とうって変わり、冷酷無情な高利貸の手代となっていました。当時、高利貸は隠語で「アイス」と呼ばれていました。横浜の馬車道に「アイスクリン」が登場し、「氷菓子」と呼ばれていました。貫一は「アイス」と呼ばれていたためだが、これと発音がよく似ていたためだと言われています。それだけでなく氷のように冷酷無情な取立てをしていたことも「アイス」の所以になったようです。

その後、宮は後悔を綴った手紙を送り、貫一を訪ねて許しを乞いますが、けんもほろろの応対で、追い返されてしまいました。しかし、最後に貫一は様々な人々に出会い、その境遇の変化を知り、かすかに以前の心を取り戻そうとします。そこ

へ重ねて送られてきた宮の手紙には、後悔のあまりに健康を害し、死を意識しながらも許しを乞う、哀れな宮の現状が綴られています。

そして宮の手紙が開封されその内容が記された時点で、尾崎紅葉が三十六歳で亡くなります。作者の死により作品は未完となってしまいます。「金色夜叉」が未完なことはあまり知られていませんが、これは「手紙の開封」という丁度キリの良いところで終えているからかもしれません。

尾崎紅葉と「硯友社」

ここで、作者・尾崎紅葉について若干お話ししたいと思います。

尾崎紅葉(一八六七〜一九〇三)は、東大予備門在学中の明治一八年、学友らと近代初の小説結社「硯友社」を結成。好評を博した出世作「二人比丘尼色懺悔」を発表後、「読売新聞」に入社。すなわち専属作家となります。

言文一致体(「である」調)で綴った「二人女房」をはじめ同紙上、多くの小説を連載。代表作は「三人妻」「多情多恨」「金色夜叉」など。優れた英語力を生かし、多くの翻訳や翻案を発表しています。

余談になりますが、当時の「硯友社」は美男ぞろいで有名でした。写真の右端が尾崎紅葉です(図1③)。彼らは今でい

うメディアミックスという現象を巻き起こしていきます。若い女性に人気があり、グループで芝居まで行ったそうです。とりわけ、尾崎紅葉は文壇に政治力があり、当時は「原敬首相よりも政治力ある」と言われたほどだそうです。ただ、とても性格の良い親分肌的人物でしたので、このグループの名声はどんどん膨らんでいきます。ちなみに、紅葉は夏目漱石と同じ年齢です。彼らの満年齢は明治の元号と同じで、明治二十年だと満二十歳になります。まさに、明治を代表する作家であつたわけです。

ところで、「金色夜叉」が未完であつたことを惜しむ声は多く、紅葉のメモをもとに、愛弟子の小栗風葉が、明治四十二年に「終篇金色夜叉」を発表しています。ほかにも、「金色夜叉」の人気に注目した作家が、続々これに関連するタイトルを自作に冠しましたが、それは紅葉の作品とは直接関係はありません。ちなみに、「終篇金色夜叉」では最終的には宮が精神のバランスを失ってしまい、富山家は財産を失ってしまいます。最後は貫一が宮を引き取って熱海に連れていくというストーリーになっています。

さて、新聞小説について紅葉は一つのポリシーを持っていました。弟子には常にこう教えていたそうです。

「外国語の読める者は、何も幼稚な頭から生み出した愚にも付かぬことを並べて

外国の作品をヒントに

見るよりかせつせつと翻訳をして見るが
可い、翻訳をすると、原書の思想も味へ
るし、且文章の稽古にもなつて、一挙兩
得だ」(小栗風葉「紅葉先生の門下教授法」
明治三十九年)

紅葉は多くの翻訳・翻案を手がけてい
ます。そうしたところから、「金色夜叉」
には外国の作品の元本があるのではとい
う噂がありました。その噂のもととなつ
た諸説をここで紹介します。

たとえば田山花袋は、「金色夜叉は」
多情多恨(「金色夜叉」の前作)のよう
に受けない作を書いた報酬として止むを
得ず筆をとつた種類のものに属するのだ
である。現に西洋の通俗作家の翻案であつ
たことに徴してもそれが解る。「尾崎紅
葉とその作品」(明治四十五年)と、書い
ています。また、紅葉の弟子の徳田秋声
と久米正雄の座談会には、次のような会
話があります。

(秋声)「原書を読んで見たが、大分違つ
て居る、紅葉さんの方は余程道徳的にな
つてゐる。」

(正雄)「あれは藍本(らんぼん)があり
ますか。」

(秋声)「大体あります。」

〔女性〕(大正十三年)
さらにこの徳田秋声は、「多情多恨」に

は粉本があるとして、「金色夜叉」も「或
るひはその主題は外国の作品から来たも
のではないか」と疑っています。(尾崎
紅葉読本「昭和十二年」)

ただし、明治時代には外国の小説から
ヒントを得ることは何も意外なことでは
ありませんでした。夏目漱石や芥川龍之
介の小説にも、そうした作品があります。
正岡子規は「閑人閑話」というエッセー
のなかで「外国文学の長所を取るは文学
發達の上に必要な一事なり」として、
「賞賛され、むしろ名譽とすべきだ」と
述べています。同じように紅葉も特段そ
うしたことを隠そうともしなかつたよう
です。巖谷小波の「金色夜叉の真相」に
よれば、紅葉は友人たちに「ある外国の
小説を読んでいたら、ある男が初恋の女
性をいざと言うときになつて、有力な恋
敵に奪われる場面があつた」と語り、「面
白いから翻案して、今度の讀賣の小説に、
使つてやらうと思ふのだ」とつけ加えた
とされています。このように、外国の小
説を翻案することに紅葉は罪悪感を抱い
ていなかったようです。むしろ、それを
工夫することに喜びを見出していただけ
ではないかと思われまふ。

原作は「女より弱き者」

二〇〇〇年十一月、のちに私の博士論
文の一部として発表した「金色夜叉」の

種本(原作)が英書で發見というニュー
スが、「読売新聞」で大きく取り扱われ
ました。その原作となつたのがバーサ・
M・クレイという作家の「女より弱き者」
です。この作家は、貴族社会やキリスト
教精神をもとにした、劇的な展開をする
恋愛小説を次々に發表、英米の若い女性
讀者を中心に熱狂的な支持を得ており、
一五〇〇作ともされる多作ぶりとも絶大な
人気から、伝説の作家と称されました。

「女より弱き者」の舞台は英国。美貌
のヒロイン、ヴァイオレット(鳴澤宮)
と恋人のフィリックス(間貫一)、そし
てオーウェン・シャヴァニックス卿(富
山唯繼)が登場する物語で、両作品に共
通するエピソードも多く見られます。た
とえば、「宮に紫(ヴァイオレット)の
イメージがまつたこと」「富山がヴァ
イオレット香水の愛用者であること」「貫
一が東京帝国大学に入学予定の優秀な人
材であること(フィリックスも名門オッ
クスフォード出身)などが挙げられます。
ただ、ヴァイオレットは宮よりも富へ



図-④

の執着が強く、自己主張もはっきりして
います。紅葉が彼女を日本的ヒロインの
宮に変えるには相当の換骨奪胎が要され
たと推測されます。したがって、ストー
リーの後半は「金色夜叉」から離れてい
きます。オーウェン卿は落馬して世を去
り、ヴァイオレットはさらに身分の高い
英国屈指の大富豪の公爵と再婚、フィ
リックスは聡明で優しい幼なじみと結婚
します。それにしても、後悔し続ける優
しい日本女性を描いた紅葉の手腕はさす
がだと言わざるを得ません。

当時、外国人作者の作品を翻訳・翻案
して發表された日本の名作は、知られて
いる限りでも相当数にのぼります。とり
わけ、バーサ・クレイの面白い点は、時
代と国境を越えて読まれるテーマを扱つ
ていることです。たとえば、「女よりも
弱き者」は英国と米国で人気を博した後、
紅葉によって日本にもたらされ、「金色
夜叉」というかたちとなって一世を風靡
しましたが、その後一九一三年には、今
度はこの「金色夜叉」が、趙一斎(チヨ・
イルチエ)によって「長恨夢」(チャハ
ンモン)という作品に翻案され、朝鮮半
島で一大ブームを巻き起こしました。

なお、私の拙い翻訳で「女より弱き
者」(南雲堂フェニックス(図④))が、
二〇〇二年に出版されていますので、ご
興味のある方は併せてお読みいただけ
ば幸甚です。

第335回 望星講座 2010年12月4日

今、日本がデンマークから学ぶことは何か

～高齢者福祉の取り組みから～

ユーロ・ジャパン・コミュニケーション

代表 小島ブンゴード孝子

望星学塾、東海大学の創立に多大な影響を与えたデンマークの教育。そのデンマークで長年生活し、日本とデンマークを行き来してきた講師が、教育・医療・福祉の三分野にスポットを当て、とりわけデンマークの高齢者福祉で実践されている「やさしい介護」の取り組みと、その根底にある社会理念を紹介し、そこから我が国が何を学べるかを考えます。



小島ブンゴード孝子

【こじま・ぶんごーど・たかこ】

1949年、東京都生まれ。学習院大学英文科卒。学習院初等科英語教師、在デンマーク日本大使館勤務、日本関連企業勤務を経て、1983年ユーロ・ジャパン・コミュニケーション社代表、2010年から信州短期大学特任教授。専門領域は、コミュニケーション、社会評論。主な著書に「モアあるデンマーク高齢者の生き方」(ワールドプランニング社)「福祉の国は教育大国—デンマークに学ぶ生涯教育」(丸善ブックス)「つらい介護からやさしい介護へ—介護の仕事を長く続けていくために—」(ワールドプランニング)「北欧に学ぶやさしい介護—腰痛をおこさないための介助テクニック—」(同)ほか多数。

望星講座での私の講演は今回で6回目になります(別表参照)。毎回、どんなテーマでお話ししようか悩むところですが、できるだけ重複しないように心がけています。ただし、今回が初めてという方も会場にお見えの方ですので、簡単な自己紹介とデンマークという国について紹介させていただき、後半はこの講座では初めてとなる「やさしい介護」について言及させていただきます。

私が若いころは、通訳など言葉のコミュニケーションに関する仕事が主流でしたが、15年ほど前から徐々に軌道修正して、現在は主に外から日本を見て、日本が抱えている問題点や課題が何かを提起することに取り組んでいます。具体的には、メッセンジャーとして日本全国を回り、講演やセミナーなどを開催しています。今年は4回の来日となりましたが、近年だんだん滞在期間も長期化し、この秋は2カ月間滞在してデンマークの実情をお話するとともに、少子高齢化時代の介護のあり方をテーマに、「つらい介護では良い介護はできない」と訴え、「やさしい介護」実現のためのセミナーを実施しています。また今年度からは、長野県佐久市にある信州短期大学の特任教授として、日本滞在中に集中講義を行っています。今後はこのような教育活動も積極的に進めたいと思っています。

「満足度」が世界一の国

いつも申し上げていますが、デンマークは「小さくて大きな国」です。面積が北海道の半分、人口はほぼ同じぐらいの小国であっても、福祉先進国、豊かな国として知られ、国際競争の中で頑張っているという意味合いです。2年前のデータでは、国民一人当たりのGNPが世界第4位(日本は19位)でした。また最近よく言われる「幸福度」は、4年前の国際比較調査によると約180カ国中第1位(日本は90位)でした。勿論尺度をどう捉えるかで順位は変わると思いますが、デンマークはいずれの調査でも第1位にランキングされています。ある学者は、「デンマークは年を取ることによって幸福度が高まる国」と述べています。これが真の福祉先進国の姿だと思うのですが、日本は残念ながらその逆で、年齢が高くなるほど生活不安が増すとメディアで報じられています。私は「幸福度」という言葉はあまり好きではありませんが、言い換えれば「満足度」だと思います。若い人が自分の能力をフルに活かして楽しくいきいきと暮らす。あるいは高齢者が安心して暮らせる、そういう満足度だと思います。

デンマークは小さな国ですが、パワーのある国だとも感じています。このパ

これまで望星講座で行った講演

回	年月日	テーマ
227	2001.12.8	ケアは誰のものか？ ～社会福祉デンマークから見た日本～
239	2002.11.30	高齢者・障害者の生活・住まい・ケア ～ノーマリレーションからインテグレーションへ～
263	2004.12.11	なぜデンマークは福祉先進国になったのか ～そのプロセスに学ぶこと～
287	2006.12.9	デンマークは少子化をどう克服したか
310	2008.11.15	自立社会 ～デンマークの家族像～

ワ一の源は人に他なりません。国土があまり豊かではないデンマークでは、人的資源をいかに大切にして活用するかがキーワードです。だからこそ教育に最大の投資をし（公共教育）、男女が共に働いています。そして若者からお年寄りまで皆が安心して生活できるように、福祉・医療などの公共サービスにも多額の予算

を割り当てています。この公共経費は国民が納める税金でまかなわれていますから、当然国民の負担は高くなります。所得税は平均すると50%、消費税は25%、自動車税は180%にも上ります。これほど税金が高いのに、満足度も高いのはなぜか？ それは、税金が有効に使われている、と一人ひとりの国民が感じているからです。つまり、「自分の負担が、いざ自分にも還元される」という社会保障システムを信頼しているわけです。だからといって彼らがのんびりと過ごしているわけではありません。デンマークでは若者が早く自立し、親に頼らず自立していますが、このような生活は決して楽ではありません。しかし皆の力で安心できる社会を作っているから、自立して社会に飛び込んで行けるのかもしれない。

一方、デンマークは貿易立国でもあります。日本にもたくさんデンマーク製の品が入ってきていますが、知られている製品は、おもちゃのレゴ、ロイヤルコペンハーゲン、風力発電ぐらいでしょうか。一般の方はあまりご存知ないようですが、日本の糖尿病患者に使用されているインシュリンの約7割はデンマーク製です。デンマークではこうした特殊な製品を多く生産しており、これを総じて「すきま産業」と言っています。デンマークの経済力は、この「すきま産業」を武器

にグローバルビジネスをすることで生まれており、その利益の一部が税金として公共サービスに回り、それが無駄なく使われているのです。これらすべて、人的資源をフルに活用してはじめて可能になるのです。



三つの人生

次は、デンマーク人が考える三つの人生についてお話しします。その第一は人間形成期、第二は生産期、そして第三が退職後の人生です。第一の人生では、まず遊ぶことが大切です。そして学校に入学すると、「自分探し」が始まります。「自分がどんな人生を歩んだらよいか」「自分に何ができ、何をしたいのか」ということを学生時代に考えます。ですから教師の役割は一流大学に入学させることではなく、一人ひとりの良さや能力を伸ばすことに力が注がれます。第二の人生では、男女ともに働きます。家庭でも、家事や育児を一緒に行います。そして女性は、自分で働いて得た収入から税金を支払います。これがデンマークの女性が70年かけて獲得した権利なのです。そして第三の人生は、自立した生活を出発する限り続け、自分らしい生活を送ることです。デンマークでは、年離れた親が子ども家族と同居することは殆どありません。大半の高齢者は、家族は心の支えであるが

ケアはプロに任せるといふ考え方を持っています。そしてデンマークのシニアたちは、「長生きよりも、自分らしい人生を最後まで送りたい」と考えています。ただ最近健康志向が高まり、平均寿命も少し上がってきているようです。また、自立した「いきいき高齢者」の活動を支援する場所もたくさん用意されています。いざれにしても、デンマーク人の生き方・老い方には、日本人が学ぶべきヒントがあるように思います。



デンマークの高齢者福祉

このように、デンマークでは高齢者の生活を社会が支援しています。高齢者福祉制度は過去40年間に、社会情勢の変化に伴ってかなり変わってきました。しかし、長年にわたり変わらない部分もあります。今日はその点をお話したいと思います。

デンマークにおける高齢者福祉のキーワードに、介護の三原則があります。それは、①自己決定、②継続性、③残存機能の活用です。

先ほど述べましたように、デンマークの高齢者は最後まで自分らしい人生を送りたいと考えていますので、「自己決定」（自分の人生は自分で決める）を尊重します。「継続性」は、長年住み慣れた地域で最後まで生きるといふことです。



しかし自分の家が自分の身体機能やライフスタイルに合わなくなったらば、無理してそこに留まらずに、住まいを変えることも選択肢として考えます。日本では施設とみなされている老人ホームも、現在デンマークでは「終の住まい」(在宅)とみなし、入居しても各自のライフスタイルを継続できるようなケアが実現しています。

日本の高齢者施設を回っていますと、殆どの施設で入居者の日課を施設側が決めておくことに気がきます。朝食は7時、入浴は何時、就寝は何時と・・・。これは入居者一人ひとりのライフスタイルを反映したのではなく、継続性はあ

まり望めません。「残存機能の活用」とは、どんなに身体機能が低下しても、自分でできることは自分でするという事です。たとえばヘルパーさんに掃除をしてもらう場合も、空拭きができるのであれば、その部分は利用者によってもらいます。すなわちデンマークと言う良いケアとは、介護者と利用者の双方がこの三原則を尊重し守ることなのです。

「つらい介護」から「やさしい介護」へ

日本ではとかく手取り足取りしてあげることが「やさしさ」だと思われがちですが、利用者・介護者双方にとりやさしい介護でなければ、本当にやさしい介護とは言えません。むしろ、一方的な介護は「つらい介護」なのです。今の日本の介護の問題点はここにあるように思います。

デンマークでは、プロの人たちが職域を超えたチームワークを組んで、同じ目標である「やさしい介護」に取り組んでいます。ここで言う「やさしさ」とは、負担なく快適で、難しくなく思いやりのある「やさしさ」です。現在の日本の高齢者介護は、介護する人にとり負担の大きい仕事になっています。腰痛や腱鞘炎などに苦しみ、5年未満で離職する人が後を絶ちません。ですから、介護の専門

学校にも若者が集まりません。介護の事は近頃では「4K」と呼ばれています。その1つは、結婚ができないということだそうです。要するに、時間的にも、肉体的にも、収入面でも苛酷な仕事だということなのです。このように、日本では介護の専門職の人材不足が深刻な問題になっていきます。今デンマークから学べることの1つに、このサービスする側の労働環境の改善があると思います。高齢者福祉サービスは高齢者だけの問題ではありません。進展する少子化の中で、若い有為な人的資源をいかに育てるかが問われているのです。

デンマークには働く人の安全を守る法律があります。それは労働環境法です。これは、日本の労働安全衛生法に相当します。ただこの二つの法律は、似ているようで実はかなり隔たりがあります。デンマークの労働環境法は、すべての職場に対して、職場が安全かどうか判定することを義務付けており、労使半々で委員会を設け安全をチェックします。これを怠ると罰せられます。ですから介護施設にも当然抜き打ちで監査が入ります。その結果不合格の場合は赤いスマイリーマークが付き、要注意には黄色いスマイリー、合格だと緑のスマイリーが付きます。何とこれが労働監督局のホームページに名指しで紹介され、若者が入社を決める目安にもなるので、企業側としては

労働環境を軽視すれば良い人材は確保できなくなる、厳しい法律です。このように、労働環境を重視する法律の存在も、日本がデンマークから学べる一つではないかと思えます。

介護職場の問題と改善点

次に、デンマークの介護職場が抱えていた問題と改善のために行ってきた取り組みについて紹介します。30年ほど前、デンマークは不況が長引き、以前のような公共サービスレベルを維持することが困難になりました。そこで予算削減のために医療では在院日数が短縮され、要介護度の高い高齢者が増えて介護現場の負担が増し、さらに介護サービスの合理化も要求されました。そのため職員のストレスと健康障害が大きな問題となりました。ある意味で、今の日本と同じような状況があったのです。

ではこの深刻な状況をどうやって乗り切ったのか。まず職場環境の安全確認を徹底して行いました。これは在宅ケアも同様で、利用者の自宅も介護者の職場と考えると職場判定の対象となり、問題点は利用者やその家族の理解を求めて改善しました。もう一つの取り組みは、福祉用具のフル活用です。福祉用具を利用者の利便性と自立を高める目的だけに使うのではなく、介護者の身を守るためにも積

「やさしい介護」の実践

極的に活用することを徹底しました。そしてさらに、負担の少ない介護を可能にするために、人間工学に基づく北欧式トランスファー（移動・移乗介助）の教育と普及を徹底させました。これがいわゆる「やさしい介護」です。この「やさしい介護」の基本的な考え方は、①絶対に人を人力で持ち上げない、②利用者の積極的な参加を促す（残存機能の活用）、③自然な動き（ラクな動作）を取ることで

2009年に「北欧に学ぶやさしい介護」というDVD+解説本を出しました。

ここでは、腰痛を起こさないためのさまざまな介助テクニックを紹介しています。基本は「持ち上げないでください」「できることは本人にやってみてもらいなさい」「自然で無理のない姿勢で作業してください」です。これらは決して難しいことではないのですが、日本の介護現場では、どれも殆ど実行されていません。実はこうした意識改革がいまの介護の現場では必要なのです。

介護用電動ベッドやリフトなど大掛かりな介護器械ばかりでなく、身近にもとても便利な道具がたくさんあります。その一つは人間の「手」です。この手で相手を安心させることも、協力する気に

させることも、また相手に自然な動きを促すことも、邪魔な摩擦を軽減することもできます。またベッド上の移動介助で生じる摩擦を取ってラクに作業するために、身体の下に滑りやすいシートを敷くこともあります。これはスライディングシートと呼ばれていますが、実はこれはヨットの帆に使われている布です。シートの代わりにプラスチックのゴミ袋を利用しても構いません。要は発想の転換です。重たい身体を持ち上げて身体を痛めないためには、こうした工夫が必要なのです。

介助者の姿勢にも問題があります。前傾姿勢や身体をひねりながらの作業は身体に負担がかかります。常に正しい姿勢で作業することを心掛けることが肝心です。手が届かなかつたら、手の延長として、シートやバスタオルなどを使うこともできます。また利用者に足で踏ん張ってもらうと移動介助がやりやすくなる場合がありますが、高齢者はなかなか踏ん張れません。そのような場合は、100円ショップでも売っている滑り止めマットを足の裏に敷くとずっと踏ん張りが利くようになります。まずはこうした身近な道具を上手に利用することを考えて頂きたい。そしてそれでも駄目ならば介護器械を使用します。

デンマークでは、移動・移乗介助に必要なケースの約9割は持ち上げずに水平

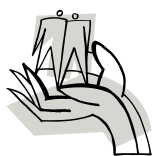


移動で介助できますが、どうしてもこれが出てこないケースが残りの約1割と言われています。ここで必要になるのがリフトです。介護施設には要介護度が高くリフトが必要な利用者が必ずいますので、当然リフトが整備され使用されています。しかし日本の介護現場では、リフト介助は時間が掛かり面倒だ、機械で持ち上げるなんて冷たい、といった見方が未だに根強いために殆ど導入されていませんし、あったとしてもあまり利用されていないのが現状です。これでは「つらい介護」から脱却することはできません。

ここで椅子からの立ち上がり・歩行・椅子への座り介助を少し実演してみま

す。椅子からの立ち上がり介助をするときには、相手の手を腕相撲式に握って、その手を前方から上へと動かしてください。そうすると相手が立ち上がろうという気になってくれますし、前傾になり腰を浮かす自然な立ち上がりの動作を取りやすくなります。歩行時には相手の横に立ち、脇と脇をぴったり付けて手で支えながら一緒に歩くと歩行が安定しますし、不安感も薄れます。また椅子にすわる時は、片手で相手の肩を手前に押し、前傾姿勢を促し、もう一方の手で股関節あたりを軽く押しながらゆっくり身体を落としてあげると、自然な動きでラクにすわることができます。このような介護は、施設だけでなく家庭でも応用できますので、是非ここで紹介したような「やさしい介護」を心掛けてください。

私がデンマークから学んだこの一つは、今日紹介したような「やさしい介護」ですが、それはまさに「人を大切にすること」という資源をフルに活用することにつながります。このことは、高齢者であっても介護する人であっても同じだと考えます。こうした「やさしい介護」は、多少時間が掛かるかもしれませんが、日本でも実現できると私は確信しています。



無限

2011年2月15日発行

〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-17-1

TEL 0422-51-0161 FAX 0422-53-1025

E-mail:bosei@parkcity.ne.jp

http://www.tokai.ac.jp/bosei/

「無限」はホームページでもご覧いただけます